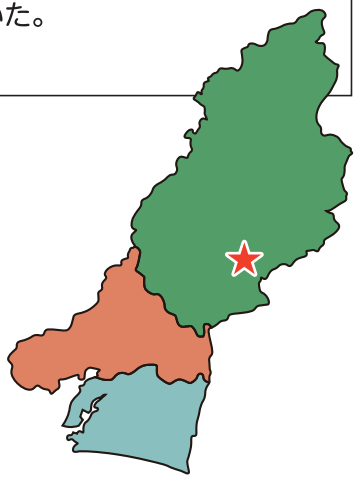
「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな 名称	いぬ い の つ な ん ひき **犬居のつなん曳**	担い手	犬居自治会(龍勢社)
		文化財指定	市指定 昭和41年(1966年)
場所	天竜区春野町堀之内(犬居地区)	開催日	5月5日

概要	気田川の氾濫を防いだ龍の伝承に由来する祭礼。蛇体と呼ばれる龍を模した竹を加工した担ぎ物を地域内で引き回し、最後に犬居橋から気田川に納めて終わる。初子の初節句のお祝いがあれば、初子宅の玄関に蛇体の頭部を掛け声に合わせて入れる。笛や太鼓を交えたお祝いの席も初子宅の向かいの場所に設け、賑やかに祝う。
起源	不詳。昔、気田川の増水で堤防が決壊しそうになったとき、氏神の諏訪神社の祭神が竜となって堤防に横たわり、村を守ったとの言い伝えがある。
演目・楽器	午後4時30分頃に熱田神社(諏訪様)を参拝する。参拝後、気田川の川原に移動して、蛇体を仕上げる。蓮華の花で目を入れる。蛇体の大きさは、竹の長さによって毎年異なる。令和6年(2024年)の計測では、頭部1.8m、首(藁縄で巻いた部分)2.8m、胴～尾30.4mの計35mであった。午後5時頃に龍勢社総会が行われる。川原に会員が車座に座り、規約を読み上げ、初子が紹介される。午後5時30分頃、つなん曳開始。初子宅があれば、初節句の祝いとして、掛け声に合わせて、初子宅の玄関に蛇体の頭部を入れる。この後、初子宅近くの場所に笛や太鼓を交えたお祝いの席が設けられる。午後7時30分頃、犬居橋へ移動し、龍を川に納める。 【熱田神社の紹介】 諏訪神社は、かつて犬居字市場の鎮座であったが、享保の大水によって流失し、享保7年(1722)年9月に熱田神社に合祀された。現在の熱田神社の社殿は明治41年(1908年)9月に改築された。
変遷 現在の姿	【開催時期】 昔は諏訪神社の祭日と同じ日。大正時代の頃までは6月15日が祭礼日であったが、明治の頃から5月の節句の日。(出典:木下恒雄『気田川畔民俗誌1　綱ん曳き』、周智郡誌) 【河原から北上して集落へ入るルート】 以前は「お>ざかい=堀之内と領家との地境」を通ったが、平成26年(2014年)頃、太陽光発電が建設され、龍が曲がるときに直角には曲がれないため、一本東側にルート変更した。 【納め方】 明治の終わりの頃までか、大正時代頃までは、蛇体を曳いたまま気田川の土堤上に登り、それから川原に出て水流の中ほどまで担いでいき、泳がすように川水の中に入れていた。 気田川に橋がかけられてから、橋の上から納められるようになった。

◉作成年月日／令和6年9月30日現在の情報